

北見工業大学学報

第 218 号 (2006 年 11 月号)

目 次

入 学 式	平成 18 年度秋季大学院入学式举行……………	2
入 試	平成 19 年度大学院 (第 2 次) 学生募集要項の公表……………	3
研究助成	平成 19 年度科学研究費補助金申請件数一覧 (学科等別) ……	4
	NEDO 技術開発機構 平成 18 年度産業技術研究助成金交付決定……………	5
	ノーステック財団 平成 18 年度「研究開発助成事業」補助金交付決定……………	5
	科学技術振興機構 平成 18 年度シーズ発掘試験採択課題決定……………	5
	平成 18 年度共同研究の受入状況……………	6
	平成 18 年度受託研究の受入状況……………	6
	平成 18 年度奨学寄附金受入状況……………	6
研 修	平成 18 年度国立大学法人北見工業大学若手職員研修……………	7
諸 報	消防訓練を実施……………	8
	父母懇談会 (秋季・北見) を開催……………	9
	夏期冬道安全運転講習及び交通安全講習会を実施……………	10
	平成 18 年度の構内美化作業を終了……………	11
	特別講演会を開催……………	12
	オホーツク圏 4 信用金庫との包括連携協定調印式……………	13
	平成 18 年度合同企業研究セミナーを開催……………	14
	平成 18 年度国立大学法人北見工業大学永年勤務者表彰式……………	15
	OE ³ 「エネルギー教育実践校との意見交換会を実施」……………	16
計 報	谷口孝男教授……………	17
日 誌	10 月・11 月……………	18

= 入学式 =

平成 18 年度秋季大学院入学式挙行

(総務企画課)

平成 18 年度秋季大学院入学式が、10 月 2 日 (月) 午前 10 時から学長室で行われました。

入学者は、博士前期課程機能材料工学専攻 李稚鷗さん (中国)、博士後期課程システム工学専攻 中村昌弘さん (社会人)、進藤治美さん (社会人) の 3 人です。

式では、入学許可の後、学長の式辞、役員等等の紹介が行われ、無事終了しました。



入学式の様子

= 入試 =

平成 19 年度大学院（第 2 次）学生募集要項の公表

（入 試 課）

平成 19 年度大学院工学研究科博士課程（第 2 次）学生募集要項が 11 月に公表されました。概要は以下のとおりです。

	博士前期課程	博士後期課程
専 攻	機械システム工学専攻 電気電子工学専攻 情報システム工学専攻 化学システム工学専攻 機能材料工学専攻 土木開発工学専攻	システム工学専攻 物質工学専攻
選 抜 の 種 類	一般選抜 学部 3 年次を対象とする選抜 社会人特別選抜 外国人留学生特別選抜	一般選抜 社会人選抜 外国人留学生選抜
募集人員	各専攻とも若干人	各専攻とも若干人
出願資格	大学を卒業した者又は平成 19 年 3 月までに卒業見込みの者 等	修士の学位を有する者又は平成 19 年 3 月までに取得見込みの者 等
出願期間	平成 19 年 1 月 15 日（月）～1 月 19 日（金） （出願資格の事前審査受付 平成 18 年 12 月 4 日（月）～平成 18 年 12 月 7 日（木））	
試 験 日	学力試験 平成 19 年 2 月 6 日（火） 面接試験 平成 19 年 2 月 7 日（水）	面接試験 平成 18 年 2 月 6 日（火）
合格発表	平成 19 年 2 月 14 日（水）	

= 研究助成 =

平成19年度 科学研究費補助金申請件数一覧（学科等別）

（研究協力課）

学科等 研究種目等	機械システム		電気電子		情報システム		化学システム		機能材料		土木開発		共通講座		センター等		合計	
	件	千円	件	千円	件	千円	件	千円	件	千円	件	千円	件	千円	件	千円	件	千円
特別推進研究																	0	0
特定領域研究 (計画)	(1)	14,300															(1)	14,300
特定領域研究 (公募)	1	14,300															1	14,300
特定領域研究 (公募)									3	7,818							3	7,818
基盤研究(S)																	0	0
基盤研究(A) (一般)									(1)	6,000					(1)	4,600	(2)	10,600
基盤研究(A) (海外学術調査)									1	6,000	3	51,540			1	4,600	5	62,140
基盤研究(A) (海外学術調査)																	0	0
基盤研究(B) (一般)	3	31,521	2	14,129	2	17,266	2	17,330	1	7,845	6	46,967					16	135,058
基盤研究(B) (海外学術調査)											(1)	1,300					(1)	1,300
基盤研究(B) (海外学術調査)							2	15,400			1	1,300	1	3,600	1	7,654	5	27,954
基盤研究(C) (一般)	(2)	1,400	(3)	1,800	(2)	1,700	(5)	4,700	(1)	700							(13)	10,300
基盤研究(C) (一般)	13	32,883	15	24,987	10	19,091	9	12,424	6	15,706	8	19,229	5	7,597	2	5,050	68	136,967
萌芽研究	(1)	500	(1)	600	(1)	1,700											(3)	2,800
萌芽研究	5	11,745	1	600	8	17,507	6	13,639	5	16,080	3	9,890	3	3,730	1	2,837	32	76,028
若手研究(A)									1	18,850	1	5,417					2	24,267
若手研究(B)							(1)	700			(1)	1,300	(1)	500			(3)	2,500
若手研究(B)	1	3,120	1	1,980	3	3,798	3	6,523	3	4,675	4	9,832	2	1,400	3	6,426	20	37,754
計	(4)	16,200	(4)	2,400	(3)	3,400	(6)	5,400	(2)	6,700	(4)	9,900	(1)	500	(1)	4,600	(25)	49,100
計	23	93,569	19	41,696	23	57,662	22	65,316	20	76,974	26	144,175	11	16,327	8	26,567	152	522,286

※備考 1 上段()内は継続課題の内定数で内数 2 金額は平成19年度申請(内定)額

NEDO 技術開発機構 平成 18 年度産業技術研究助成金交付決定

(研究協力課)

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交 付 金 額
機能材料工学科	助教授	石川 和宏	耐水素脆性に優れた非パラジウム系水素透過複相合金の研究開発	7,800 千円

ノーステック財団 平成 18 年度「研究開発助成事業」補助金交付決定

(研究協力課)

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交 付 金 額
土木開発工学科	助 手	舘山 一孝	ネットワークカメラを用いた流水モニタリング	1,000 千円

科学技術振興機構 平成 18 年度シーズ発掘試験採択課題決定

(研究協力課)

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交 付 金 額
機械システム工学科	助教授	松村 昌典	積雪寒冷地における冬季道路環境向上のための集風塔型風車と防雪柵のハイブリット化に関する試験研究	2,000 千円
化学システム工学科	教 授	堀内 淳一	循環型バイオリアクターシステムによるチーズホエーを原料とした環境調和型融雪剤 CMA の効率生産	2,000 千円
化学システム工学科	助教授	中谷 久之	劣化反応を利用した循環型ウッドプラスチック複合材料の開発	2,000 千円
化学システム工学科	助 手	多田 清志	キノコ廃培地を利用したキシリトール発酵プロセスの開発	2,000 千円
化学システム工学科	助 手	服部 和幸	超分子構造を利用する高配向性セルロース繊維・フィルムの創製	2,000 千円
機能材料工学科	助教授	伊藤 英信	麻オガラーライムケーキ複合材料の製造と健康建材への応用	2,000 千円
土木開発工学科	教 授	川村 彰	ドライビングシミュレータを用いた道路マネジメントシステムの開発	2,000 千円

平成18年度共同研究の受入状況

(研究協力課)

平成18年11月30日現在

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民間機関等
土木開発工学科	教授	高橋 修平	圧雪滑走路造成実験に関する基礎研究	陸別しばれ技術開発研究所
情報システム工学科	講師	後藤 文太郎	オホーツクブランド形成およびインターネットを活用した販売促進に関する共同研究	財団法人オホーツク地域振興機構
国際交流センター	教授	山 岸 喬	サンゴの高機能化の研究	株式会社健康水素協会
機能材料工学科	教授	高橋 信夫	オホーツク圏における廃食油回収の現状調査とバイオディーゼル燃料生産に関する基礎研究	財団法人オホーツク地域振興機構
機械システム工学科	助教授	鈴木 聡一郎	スキーブーツセレクションシステムの開発	有限会社キャンパダンガリー
土木開発工学科	教授	川 村 彰	高速道路における路面管理基準に関する共同研究	中日本高速道路株式会社中央研究所
電気電子工学科	助教授	菅原 宣義	電力線着氷雪除去装置の開発に関する研究 —シリンダー衝撃による電力線着氷雪除去機構の研究—	北海道電力株式会社 旭川統括電力センター
木質系バイオマスイ ネルギー高度利用研 究推進センター	センター長	鈴 木 勉	触媒炭化木炭の性状・機能の解析と実用炭素製品の 開発	株式会社ズコーシャ
機能材料工学科	助教授	伊藤 英信	生体由来炭酸カルシウムの機能性に関する研究	日本天然素材株式会社 オホーツク網走工場

平成18年度累計 81件

平成18年度受託研究の受入状況

(研究協力課)

平成18年11月30日現在

所 属	職 名	研究担当者	研究題目及び研究期間	委託機関	所要経費
機械システム工学科 地域共同研究センター	教授 助教授 助教授	富士 明良 柴野 純一 有田 敏彦	第一次産業の工業化と寒冷地対応技術に 関連した金属材料加工における中核人材 育成(経産局:平成18年度産学連携製造 中核人材育成事業)	(社)北見工業技術センター 運営協会	円 4,575,900
地域共同研究センター	センター長	高橋 修平	新時代工学的農業クリエーターの創出 (文部科学省科学技術振興調整費:科学 技術総合研究委託)	文部科学省	48,780,000
化学システム工学科	助教授	三浦 宏一	マリン・イノベーションによる地域産業 網の形成	(財)函館地域産業振興財団	500,000

平成18年度累計 17件

平成18年度奨学寄附金受入状況

(研究協力課)

平成18年11月30日現在

所 属	職 名	研究者	寄 附 目 的	寄 附 者	寄附金額
機械システム工学科	教授	富士 明良	工学研究助成の為	株式会社 北翔システム	円 200,000
機械システム工学科	教授	坂本 弘志	「種々の外壁通気層構法における通気層内 の流れと湿気排出機能に関する研究」	財団法人 トステム建材 産業振興財団	1,700,000
土木開発工学科	助教授	高橋 清	工学研究のため	株式会社 ドーコン	500,000
土木開発工学科	助教授	高橋 清	今後の地域ニーズを考慮した道路整備推進 を見据えた道路利用者の移動行動選択にお ける意志決定要素の抽出検討に向け、学術 研究機関によるレベルの高い調査能力が必 要不可欠と考えられる道路利用者のニーズ 調査手法の確立・分析の実施	日本工営株式会社 札幌支 店	2,100,000
情報システム工学科	教授	鈴木 正清	工学研究のため	鈴木 正清	1,000,000
土木開発工学科	教授	鮎田 耕一	奨学研究費	太平洋セメント株式会社	300,000
共 通 講 座	教授	鈴木 一央	体育・スポーツ研究のため	鈴木 一央	600,000
土木開発工学科	教授	山 下 聡	工学研究のため	応用地質株式会社 エネ ルギー事業部	1,000,000
	学 長	常本 秀幸	ユーロトランポリンと補助台一式の購入助 成金として	北見工業大学トランポリ ン競技部OB会「北藤会」	200,000
地域共同研究センター	センター長	高橋 修平	オホーツク地域の行政・民間機関との共同 研究・研究交流及び技術指導、教育、開発 等を推進するため	北見工業大学地域共同研 究センター 推進協議会	1,500,000
地域共同研究センター	センター長	高橋 修平	オホーツク地域の行政・民間機関との共同 研究・研究交流及び技術指導、教育、開発 等を推進するため(賛助会員分)	北見工業大学地域共同研 究センター 推進協議会	400,000
寒地地震防災研究推進 セ ン タ ー	センター長	大島 俊之	「最近の災害再考フォーラム i n オホーツ ク」の運営協賛金	最近の災害再考フォーラ ム実行委員会	1,500,000
土木開発工学科	助教授	宮森 保紀	工学研究のため	社団法人日本鉄鋼連盟	1,000,000

平成18年度累計 57件

= 研修 =

平成18年度国立大学法人北見工業大学若手職員研修

(総務企画課)

平成18年度国立大学法人北見工業大学若手職員研修が8月8日(火)から8月9日(水)までの2日間にわたり、本学で実施されました。

この研修は、若手職員に対して、大学職員としての役割を自覚させるとともに、その職務遂行に必要な基本的、一般的知識を習得させることを目的とし、昨年度から事務局の30歳未満の職員を対象として実施しており、今年度は、事務職員16名が受講

しました。

研修では、大島理事による特別講演、事務局長からは「兜虫の独言」と題した日頃書き留めている雑記帳からの講演、また、各課長からは「各課における現状と課題」と題した講演が行われました。プログラムの最後には、3班に分かれての班別討議で「魅力ある大学像」について活発な意見交換が行われ、各班の代表者からそれぞれの討議結果について、発表がありました。



真剣に班別討議をする若手職員

= 諸報 =

消防訓練を実施

(施設課)

平成 18 年 10 月 12 日 (木) 午後 3 時から消防訓練を実施しました。

今回は、情報システム工学科棟 3 階ゼミナール室 3 から出火という想定で、今年も通報・初期消火・避難救助の総合訓練に加え、シュノーケル車による避難訓練も交えて行いました。

消火訓練中、屋内消火栓のホースの取扱いや救護人搬出などとまどう場面もみられましたが、全員真剣に訓練に取り組み、各班のそれぞれの役割にそったすみやかな行動で訓練にあたりました。

自衛消防隊の訓練終了後は、情報システム工

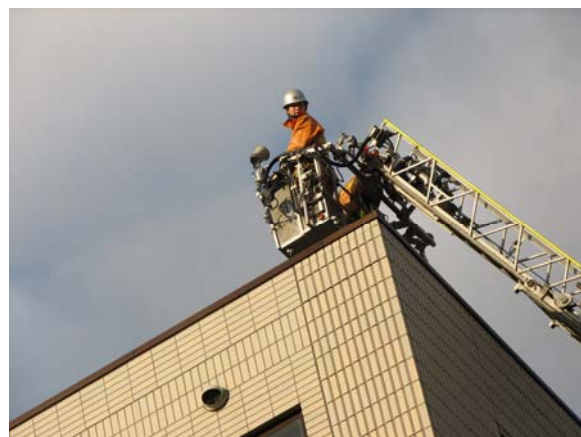
学科棟前の広場で、消火器の使用説明を受けました。消火器は環境に配慮した水消火器を使用し、火元と想定した的をねらう消火訓練を行いました。

北見地区消防組合消防本部からは、火災警報機に係る条例改正の説明と暖房器具等の火の取扱いに対する注意喚起の講評がありました。

最後に学長から、防火に対する各自の自覚を望む旨の訓示があり、午後 3 時 50 分に予定より若干早く消防訓練を無事終了することができました。



水消火器を使った消火訓練



シュノーケル車での避難訓練

父母懇談会（秋季・北見）を開催

（教 務 課）

「父母懇談会（秋季）」を、10月14日（土）北見工業大学を会場として、学生（外国人留学生及び大学院博士後期課程を除く）の父母を対象に実施しました。

当日は、全国から126組168名の父母が参加し、まず始めに全体説明会において、常本学長からは「本学の使命とその特色について」、小林副学長からは「本学の教育及び就職状況等」について説明がありました。また、学生後援会会長からは、後援会の活動状況が述べられるなど、様々な情報が父母に提供されました。

その後、各学科、専攻に分かれて、各教員による個別面談が実施されました。

回収したアンケートには、父母懇談会の実施内容に対する意見として、学内の施設見学、学科・学年ごとの交流会、学生代表による研究発表会などの新たな企画が提案されたり、また、大学内で研究開発され商品化されたものを大学生協で販売していただきたいなど参加した父母の積極的な姿勢や大学に対する関心の高さが伺われました。提案された内容は次年度に向けて検討することとなりました。



全体説明会の様子

夏期冬道安全運転講習及び交通安全講習会を実施

(学生支援課)

10月20日(金)に北見運転免許試験場で夏期冬道安全運転講習が開催され、10名の学生が参加しました。

本講習は学科講習と実際に冬道の路面の危険性を特設コースの走行を通じて疑似体験することができる技術講習の2つのメニューで構成されています。今回は冬道運転歴の長い4年生の参加が多かったこともあり、参加者は巧みなハンドルさばきを見せていました。中には、ここぞとばかりに身を以って冬道の危険を体感しようと、わだち間の移動走行時や、つるつる路面上での急ブレーキ時に勢い余って車を一回転させる学生もいました。

また、10月24日(火)には学生・教職員を

対象とした交通安全講習会が実施され、521名が参加しました。本講習会は、毎年冬シーズンを目前に控えたこの時期に開催されており、今年も講師に(財)北見方面交通安全協会の講習指導員の伊藤氏を迎えて行われました。

講習会では、パワーポイントにより飲酒運転の危険性を科学的な見地から示すデータや冬道運転時に求められる心構え、危険回避のためのブレーキ・アクセル・ハンドル基本操作等が紹介され、中には、初めて耳にする情報もあり、学生は興味を持ちながら、安全運転に対する意識を新たにしました。



夏期冬道安全運転講習の様子



交通安全講習会の様子

平成 18 年度の構内美化作業を終了

(施 設 課)

平成 18 年 5 月 15 日（月）から、毎月 2 回、半年に渡って実施してきた構内の美化作業が 10 月 23 日（月）をもって終了しました。

この美化作業は、平成 5 年度から、毎年全学の教職員と学生の協力を得て実施しているものです。

短い作業時間にもかかわらず、構内美化に対して効果は絶大で、14 年間途切れることなく毎年実施されてきました。

今年度、最後になる美化作業も、各自がごみ袋とごみハサミを手に、芝生の上や道路などに落ちている空き缶、たばこの吸い殻等のごみを丹念に拾い、熱心に行われました。

構内は、まもなく雪に覆われる季節を迎えますが、今年度の皆様のご協力に感謝をするとともに、今後も、各自が構内美化への意識を高め、クリーンなキャンパスが維持されることを期待しています。



ごみ拾い作業風景

特別講演会を開催

(総務企画課)

10月24日、「持続可能な水資源としての排水再利用」と題し、浅野孝カリフォルニア大学名誉教授を招いて特別講演会を開催しました。

浅野氏は環境工学・水資源工学、特に水再利用工学の分野において常に先端的な研究を行っており、2001年には水再利用工学における世界的に優れた業績により、「水のノーベル賞」ともいわれる「ストックホルム水賞」(Stockholm Water Prize)を受賞されました。

講演では、米国サン・ディエゴ地域の水資源における再利用水の割合が2020年には7%になることなどを示し、新しい水資源としての再利用水の重要性を強調するとともに、再利用水を飲用水とすることについては、不快感を持つ人も多いため、市民の理解や利害関係者の参加と協力が必要であると説明されました。

また、質疑応答では、「異常気象による水不足対策」や「汚泥処理の研究について」といった質問にひとつひとつ丁寧に答えられ、会場に集まった学生や一般市民の方々は熱心に聞き入っていました。



講演する浅野孝氏

オホーツク圏4信用金庫との包括連携協定調印式

(研究協力課)

去る10月24日(火)北見東急インにおいて、オホーツク圏4信用金庫(網走信金、北見信金、紋別信金、遠軽信金)と本学は、地域経済の一層の活性化と地域への貢献に資することを目的として、協定書を締結する調印式を行いました。

本学、4信用金庫の関係者が見守る中、各信用金庫の理事長と本学の常本学長が相互に協定書に調印しました。

この協定書により今後、①研究成果などのシーズと地域中小企業の技術ニーズとの

マッチングのコーディネート、②信用金庫の取引先からの技術相談に関する支援、③地域中小企業の技術ニーズの情報収集およびそれに対する情報提供、④その他、本協定の目的達成のため必要な事項について事業の推進を図ることとなります。

本協定書締結により研究交流、人材交流、及び人材育成等のうち相互協力が可能な分野で実りある産学官金連携の成果と一層の地域貢献が期待されます。



調印終了後、握手をかわす常本学長と4信用金庫理事長

平成 18 年度合同企業研究セミナーを開催

(学生支援課)

10月28日(土)、29日(日)の両日、本学では初めてとなる「合同企業研究セミナー」を本学講義室及びコミュニケーションアトリウムを会場として開催しました。

このセミナーは、キャリア教育の一環として、早い時期から就職に対するしっかりとした意識を持たせることを目的としたもので、道内外から55社の企業、本学の就職希望学生約180人が参加しました。

今後、景気回復と団塊世代の大量退職等により企業の採用意欲の上昇は見込まれる

ものの、採用に当たっては学生の質や意欲を見極める傾向にあり、「厳選」の方針は変わらないという採用状況が続くと予測されます。そのような中、これから就職活動を行っていく学生にとって採用担当者から直接、企業の説明や採用の現状、また、就職するにあたって大学時代にすべきことなどを聞くことができた今回のセミナーは大変有意義なものとなったようで、「また開催してほしい」等の意見が寄せられるなど、好評のうちに終了しました。



全体説明を受ける学生



企業の説明を熱心に聞く学生

平成 18 年度国立大学法人北見工業大学永年勤務者表彰式

(総務企画課)

平成 18 年度国立大学法人北見工業大学永年勤務者表彰式が 11 月 22 日 (水) 午後 5 時から総合研究棟の多目的講義室において行われました。

本学永年勤務者表彰被表彰者に対し、学長から表彰状の授与並びに記念品の贈呈がありました。

また、式終了後の記念撮影に引き続き祝賀会が開催され、午後 6 時和やかなうちに終了しました。

被表彰者は、次のとおりです。(50 音順)

30 年勤務者

氏 名	所 属 学 科 等
伊 藤 好 二	化学システム工学科
伊 藤 陽 司	土木開発工学科
小 林 則 子	総務企画課
斉 藤 由紀子	入試課
中 尾 隆 志	土木開発工学科
三 浦 宏 一	化学システム工学科
三 浦 節 男	機械システム工学科
村 井 伸 夫	研究協力課
吉 田 公 策	電気電子工学科
輪 島 秀 則	技術部

20 年勤務者

氏 名	所 属 学 科 等
櫻 井 宏	土木開発工学科
杉 野 豪	技術部
高 橋 定 志	学生支援課
鳴 島 史 之	共通講座
橋 本 晴 美	技術部



常本学長（前列中央）と永年勤務者表彰被表彰者

OE³「エネルギー教育実践校との意見交換会を実施」

(教 務 課)

平成 17 年度から、エネルギー教育調査普及事業の地域拠点大学として活動している「オホーツク地域エネルギー環境教育研究会 (OE³)」(代表 佐々木正史教授)では、去る 11 月 22 日 (水) に札幌大通サテライトオフィスを会場に、北海道内のエネルギー教育実践校との意見交換会を実施しました。

当日は、実践校として活動を行っている道内の小・中・高等学校から担当者 6 名が参加しました。本学の研究会委員である有田助教授の挨拶の後、各実践校の

活動状況報告及び今後の協力体制について意見交換を行いました。実践校からは、今後も交流の場を設定して欲しいとの要望があり、エネルギー環境に関する教材を対象層 (小・中・高等学校) に合わせて準備していく必要があるとの意見が出されました。

また、この活動を実践校のみならず道内の各学校へ参加を呼びかけて、エネルギー環境の教育方法について広く教育現場に反映させて行けるよう協力しあうことなど活発な意見交換が行われました。



意見交換会の様子

訃 報

(共通講座)



本学共通講座(人間科学) 谷口孝男教授は、平成18年10月12日、肝臓疾患のため、ご逝去されました。享年57歳でした。謹んでご冥福をお祈りいたします。

谷口先生は、昭和59年、本学に赴任され、「哲学」と「ドイツ語」を担当しておられましたが、その後、組織およびカリキュラムの改編に伴

い、学部では、「哲学入門」「思想の歩み」「哲学ゼミⅠ・Ⅱ」、大学院では、「人間学特論Ⅰ」「人間学特論Ⅱ」を担当されました。

また、『意識の哲学——ヘーゲルとマルクス——』(批評社、1987年)、『人間社会の哲学——フォイエルバッハとマルクス——』(同、1990年)、『論争のデモクラット——生きることの意味論——』(同、1993年)等の著書を公刊し、活発な研究活動を展開されました。

= 日誌 =

(総務企画課)

10月 2日	後期授業開始	11月 1日	教務委員会
2日	企画運営会議	1日	公開講座 (~2日)
2日	秋季入学式	7日	企画運営会議
3日	学生委員会	8日	教育研究評議会
4日	教育研究評議会	9日	入学者選抜委員会
10日	発明審査委員会	9日	推薦入学者選抜実施委員会
12日	消防訓練	10日	就職ガイダンス
12日	入学者選抜委員会	13日	企画運営会議
12日	推薦入学者選抜実施委員会	15日	教授会
14日	父母懇談会 (秋季)	15日	研究科委員会
23日	キャリアアップ研修会	17日	学生委員会
24日	特別講演会	18日	公開講座 (~25日)
24日	オホーツク圏4信用金庫との包括連携協定調印式	22日	永年勤務者表彰式
24日	平成18年度交通安全講習会	24日	発明審査委員会
25日	パソコン講習会 (~27日)	27日	知的財産セミナー
25日	大学評価委員会	27日	推薦入学者選抜実施委員会
25日	若手職員研修	28日	パソコン講習会 (~30日)
25日	附属図書館委員会		
26日	広報委員会		
28日	合同企業研究セミナー (~29日)		